

小野町町内会防災マップ

平成28年3月作成

防災～いざというときに備える～

災害時の連絡先

○災害が発生しそうなときや、発生したときは連絡を！
諫早市役所（情報連絡室・警戒本部・対策本部）
☎ 22-1500
諫早消防署 ☎ 22-0119
諫早警察署 ☎ 22-0110

災害用伝言ダイヤル

○大規模な災害が発生した場合にサービス開始！
「171」をダイヤルし、音声に従って伝言の録音・再生を行います。
携帯電話からも利用できます。

☎ 171

今できること！そして災害が発生したら

「自分だけは大丈夫」「自分の家は大丈夫」と考えず、いざというときに慌てず行動できるよう日ごろから家族で確認しましょう！自然災害には、大雨や台風などによる風水害や土砂災害、そしてどこで発生するかわからない地震などがあります。これらの災害に備え正しい知識を身につけておくことが大切です。

非常時に備える

- 家の中では
 - ・家具を安全に配置する
 - ・家具の転倒を防ぐために金具などで固定し、ガラス戸に飛散フィルムを張る
 - ・非常持ち出し品・備蓄品を準備する
- 家の外では
 - ・屋根（アンテナはしっかりと固定する。瓦のずれや割れ、ひびなどを点検し補修しておく）
 - ・ブロック塀（ひび割れや破損箇所はないか）
 - ・外壁（亀裂や腐り、浮きはしないか。プロパンガスのボンベは固定されているか）
 - ・ベランダ（鉢植えや物干し竿は室内へ）
 - ・窓ガラス（ひび割れや窓枠のがたつきはないか）



土砂災害の危険信号

土砂災害の前兆として次のような兆候があれば要注意。避難を！

- ・がけ崩れ（急な斜面で突発的に起こる）
・がけからの水が濁る・小石が落ちてくる
・がけに亀裂が入る・地鳴りがする
- 土石流（土砂などが水と一緒に流れ下るもの。速度が速く、大きな破壊力がある）
・山鳴りがする
・川が濁ったり流木が流れてくる
・雨が降り続けているのに水位が下がる
- 地滑り（一度に広範囲の地盤が動き出す）
・地面にひび割れができる
・井戸や沢の水が濁る
・がけや斜面から水が噴き出す



災害は自助・共助・公助

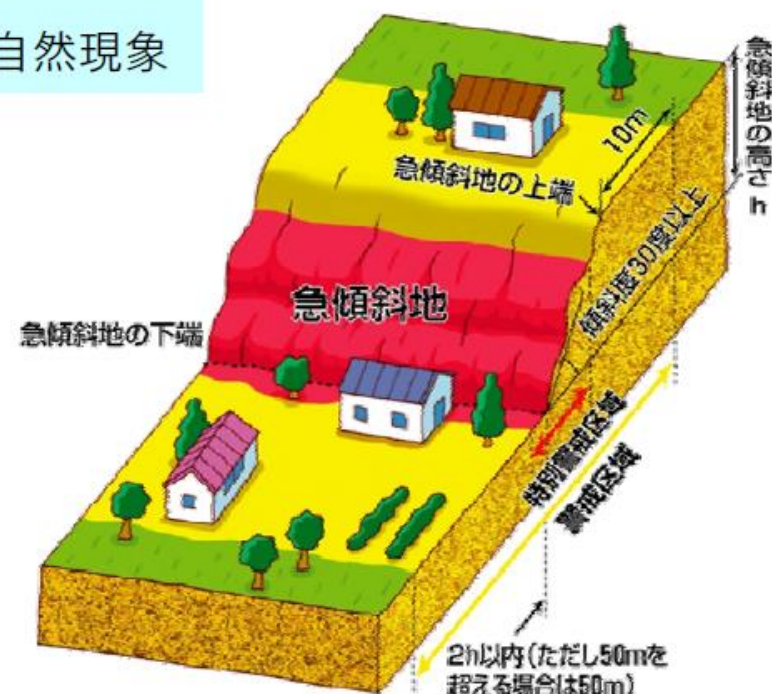
～この3つの行動が災害に対応する最も大切な基盤です～

土砂災害の種類

急傾斜地の崩壊

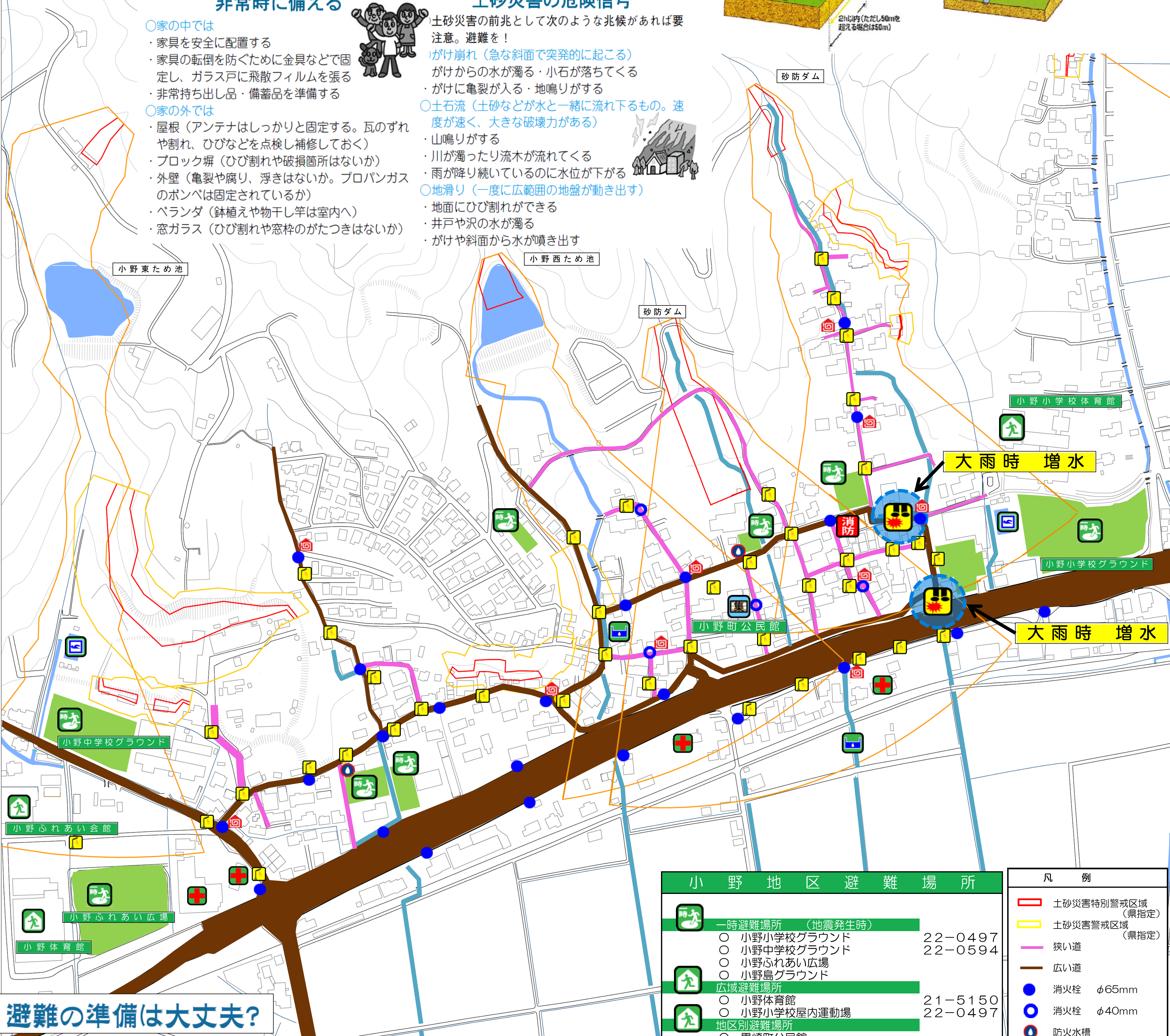
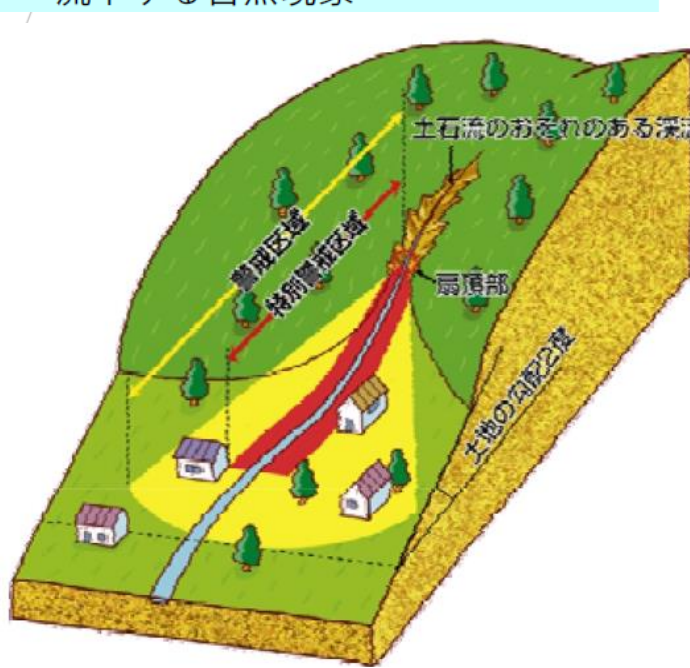
※傾斜度が30°以上である土地が崩壊する自然現象

自然現象



土石流

※山腹が崩壊して生じた土石等又は渓流の土石等が一体となって流下する自然現象



避難の準備は大丈夫？

もしものときは、慌てず避難することが大切です。広報車・防災無線・サイレンなどを通じて市が出す避難情報には、状況によって違いがあります。

情報の種類	発令時の状況	住民に求める行動
自主避難	・災害の危険が迫っていると自ら判断した場合の避難	・必要に応じて地域の公民館などに避難してください。 ・避難中の食事や生活必需品はご自分で用意してください。
避難準備情報	・避難するのに時間のかかる要配慮者は、避難を始めなければならない状況 ・人的被害が発生する可能性が高まっている状況	・高齢者、病人、障害者の人は、支援者とともに避難場所へ早めの避難を始めてください。 ・非常持ち出し袋を用意するなど、いつでも避難できるよう準備してください。
避難勧告	・通常の避難ができる人についても、避難を始めなければならない状況 ・人的被害が発生する可能性が高まっている状況	・避難場所へ速やかに避難を始めてください。
避難指示	・災害の前兆現象の発生や切迫した状況から人的被害が発生する可能性が非常に高まっている状況または人的被害が発生した状況	・避難中の人は確実に避難を完了してください。 ・いまだに避難していない人は、直ちに避難場所へ避難を始めてください。 ・避難の時間的な余裕がない場合は生命を守る最低限の行動をしてください。

小野地区避難場所

一時避難場所（地震発生時）	22-0497
○ 小野小学校グラウンド	22-0594
○ 小野中学校グラウンド	
○ 小野ふれあい広場	
○ 小野島グラウンド	
広域避難場所	21-5150
○ 小野体育館	22-0497
○ 小野小学校屋内運動場	
地区別避難場所	
○ 黒崎町公民館	22-2831
○ 小野島町公民館	21-2910
○ 川内町公民館	21-1297
○ 曙住宅集会所	
○ 小園集落センター	
○ 長野会館	
○ 桃原寺	
○ ディサービスかすみ荘	
○ 小野ふれあい会館	

凡例

- 土砂災害特別警戒区域（県指定）
- 土砂災害警戒区域（県指定）
- 狭い道
- 広い道
- 消火栓 φ65mm
- 消火栓 φ40mm
- 防火水槽
- 消防ホース格納箱
- 一時避難所（地震時）
- 広域避難場所
- 防犯灯
- プール

避難のタイミング！

- 高齢者など避難に時間がかかる人は避難準備（要配慮者避難）情報が出たとき
- 浸水、土石流、がけ崩れ、地すべりなどの恐れがあるときは早めに自主避難
- 市から避難勧告が出たとき



避難のとき心掛けること！

- ①避難をする前にもう一度火を確認
- ②ヘルメットや防災ずきんなどで頭を保護
- ③荷物は最小限（非常持ち出し品）のものに
- ④外出中の家族には連絡メモを残す
- ⑤履物は、ひもで締められる運動靴がよい
- ⑥お年寄りや子どもの手はしっかりと握って
- ⑦歩ける水の深さは、ひざの高さまでが限度（流れが速いと20cmの深さでも危険）
- ⑧洪水時は、足元に注意するため長い棒を杖わりに
- ⑨避難場所へ移動するとき、狭い道、塀ぎわ、川べりなどは避ける